

2025 年 6 月 16 日

株式会社三菱 UFJ 銀行

May Mobility, Inc.への出資および提携について

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一、以下 当行）は、今般、自動運転システムの開発を行い、自動運転サービスの提供を行う May Mobility, Inc.（代表取締役 CEO Edwin Olson、以下 May Mobility）に出資し、提携いたしました（以下 本出資・提携）。当行は、当行が有する幅広いネットワークと高度な金融サービスを活用し、May Mobility がフリートオペレーター（車両運行事業者）とともに、今後数年間で運行する自動運転車両数を数千台に拡大できるよう協働してまいります。

自動運転産業は、今後大きな成長が期待される産業の一つです。交通や移動に関する社会課題の解決だけではなく、今後のサービス拡張により、自動運転サービスを起点とした多岐にわたる産業やサービスとの連関が想定され、新しい経済価値を生み出すことが期待されています。当行および May Mobility は、自動運転を幅広い産業やサービスに導入することで国内外の経済成長を牽引していきます。

May Mobility は、自動運転技術を開発し、米国と日本で自動運転サービスを展開しています。自動運転技術は、運転免許を持たずとも不自由なく生活できる手段を提供することで、社会課題の解決に貢献しています。また、日本では少子高齢化に伴うドライバー不足や運転免許の自主返納に伴い、移動手段への十分なアクセスを持たない人が増えると見込まれています。May Mobility はこれらの課題を解決するために、自動運転車両を名古屋と東京で展開し、自動運転サービスの社会実装に向けた取り組みを進めています。

May Mobility が開発した自動運転システムは、安全性、コスト構造、拡張性に優れた独自の Multi-Policy Decision Making (MPDM) 技術を採用しており、持続可能性の高い自動運転サービスの提供を可能にします。MPDM は、AI を利用することによりリアルタイムで運転におけるあらゆるシナリオを処理し、車両が、最も安全な行動を自ら決定できるようにします。

当行は本出資・提携により、米国における自動運転サービスの拡充および、日本での自動運転サービスの社会実装に向け、さまざまなプレイヤーとの連携を通し、自動運転に対する社会受容性の醸成に貢献することで、自動運転を軸とした新たな産業クラスターの創出をめざしてまいります。

当行は、「お客さまと事業リスクを共にし、社会課題の解決に向けた新産業を創出」する事業共創に取り組んでいます。本出資・提携を通じて、多様な社会課題解決に向けて、日本および米国における自動運転産業の創出・発展と持続可能な自動運転サービスの社会実装に貢献してまいります。

【May Mobility の概要】

正式名称	May Mobility, Inc.
代表者	Edwin Olson
所在地	650 Avis Drive, Suite 100, Ann Arbor, Michigan 48108, USA
設立	2017 年 2 月
事業内容	自動運転システム開発および、自動運転サービス提供

以 上